

考古資料館開館 20 周年を迎えて

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



記念撮影 ハイハイ ハチッ!

土層の説明 ワーン何かなーっ?

発掘の体験 何が出てきたよー!

資料館の説明 わかった人 ハイ!

紀元前遺物の石室の中
ワウッ大きいー!!

小中学生夏期教室

考古資料館設立の意義

京都市では、国民的財産である文化財を後世に継承するため、市内の埋蔵文化財の調査を行ない、その成果の公表、活用を図ること、遺跡の保護と研究を通じて、市民の文化財に対する保護思想を普及啓発することを目的として、昭和51年(財)京都市埋蔵文化財研究所を設立しました。

この中で、発掘調査の成果と市民の埋蔵文化財に対する理解と認識をリンクさせることが、とりわけ重要になります。

そこで発掘調査で出土した資料を体系的に広く市民に公開展示し、上記の目的を達成するとともに、今後の市民文化の向上に資す

るため、昭和54年11月京都市考古資料館の開設に至りました。

これらの出土品は、時代を読み、市民がより豊かに生活を営むための貴重なメッセージが記憶されており、次世代に向けた最適な開発のあり方にも役立てなければなりません。

考古資料館 20 年のあゆみ

当館の主な事業として、展示事業、文化財講座、小中学生夏期教室、情報発信、遺物貸出などがあります。

展示事業には、常設展示、特別展示および速報展があります。

常設展示では、平安時代を中心に、先土器時代から江戸時代までの歴史と文化を内容に応じた各

コーナーを設けることにより、当時の社会的側面をわかりやすく説明した展示となっています。

開館以降、縄文時代の堅穴住居跡や写真展示コーナーの増設、10周年には大幅な遺物の展示替えを実施し、最近では黄金塚2号墳の大型埋輪の設置を行いました。

特別展示は、表でみられるように、発掘調査の成果の中で、特に歴史的・文化的に評価が高いものを選んで、原則として年1回展示するもので、学術・市民啓発の両面で貢献しています。

速報展は、平成5年5月の「人文面丸瓦」で試行を始め、平成7年2月の「無文銀鏡」の展示から定着しました。現在では、ニュー

ス性・公開の必要性の高いものの中から年5～6回展示替えをしています。

文化財講座は、発掘成果の内容をより詳細に紹介・解説を加えるとともに、講師独自の研究成果を発表する場でもあります。昭和61年5月から年9回開催、常に定員を越える好評を得て、現在で120回に及んでいます。

小中学生夏期教室は、次世代を担う青少年を対象に文化財に対する啓発と生涯学習の契機となるよう、夏休みを利用して開くもので、開館当初から継続しています。

情報発信業務は、情報コーナーに、京都市域の発掘調査関係資料、参考図書、各博物館事業案内などを置くとともに、リーフレット京都、特別展示の図録・目録などの配布、さらに平成9年度新装のパソコンおよびビデオによる各種の情報を網羅して入館者による活用を図っていますが、今後さらに発展させていきたいと考えています。

遺物貸出では、京都市域の調査の成果はわが国全体の成果でもあり、全国各地で展示・公開するために、毎年1,000点以上の遺物を

貸し出しています。このことが他地域との文化交流の活性化に役立つものと自負しています。

開館20周年記念事業

本年11月、当館は、記念すべき20周年を迎えます。その節目として20周年記念事業を企画しました。

まず、常設展については、遺物などの展示替えをはじめ、各コーナーのタイトル・写真・図表を見直すとともに、照明や展示台などを新装して、入館者により親しみやすく活用されるようにします。

次に特別展示・文化財講座・20周年記念講演会の三者を共通のテーマで結び、京都文化の象徴的存在である「桃山陶器」に焦点をあてた内容で行なうこととしました。

特別展示では、600点を越す桃山陶器を展示しています。文化財講座では、8回の連続講座をもうけて各方面からの調査研究成果を解説しています。12月には、檜崎彰一氏と村井康彦氏を講師に迎え、桃山陶器を中心に、その内容と意義について考古学と歴史・文化の両面からお話をうかがう20周年記念講演会を予定しています。

なお、講座での混雑を緩和し、

1人でも多くの方に受講していたくため、1階情報コーナーに大型モニターを置き、会場外でも聴講ができるように準備しています。

さらに小中学生夏期教室、および文化財講座の現地講座は、「バスで行く洛西の遺跡巡り」として、8月および9月に実施しました。

21世紀の資料館に向けて

当館は過去20年にわたって、設立の理念と目的実現に向けて努力してきましたが、国内随一を誇る発掘調査の成果に依存してきた一面があるように思われます。

今日における資料館の運営は、入館者が楽しく遊びながら、人間の生き方や文化の重要性を体験的に学ぶことができる、ハンズオンの事業の展開が求められています。

そのためには、利用者満足の視点に立って職員みずから手作りによる展示並びに各事業の創出に心がけ、生涯学習の拠点として啓発・情報発信・交流などの場を提供し続けて、地域振興ならびに町づくりに役立つ運営を心がけたいと考えています。

(京都市考古資料館 村田耕太良)

- 第1回 (79.11) 地下鉄烏丸線発掘調査展
- 第2回 (81.11) 北野南寺展
- 第3回 (83.11) 京都市の弥生土器・木器展
- 第4回 (84.11) 鳥羽離宮跡展
- 第5回 (85.11) 平安宮跡展
- 第6回 (86.11) 京都市域の群集墳展
- 第7回 (88.4) 平安宮豊楽殿跡展
- 第8回 (89.4) 桃山時代の京都・考古展
- 第9回 (91.3) 古人の祈り展
- 第10回 (94.11) 平安の古瓦展
- 第11回 (96.11) 京都発掘20年展
- 第12回 (97.11) 洛中桃山陶器の世界
- 第13回 (98.12) 続・洛中桃山陶器の世界

特別展示の一覧



情報コーナー